



# あなたのお金との付き合い方、もう一度考えてみませんか？

未曾有の大震災から4カ月。義援金の額はすでに2594億円を突破(7月4日時点)。震災で生まれた新たなお金観と、今後のお金との付き合い方について藤沢久美さんに聞いた

取材・文/西尾英子 撮影/松本英明



## 日本人のお金に対する価値観が変わりつつある

今回の震災は、私たち日本人のお金に対する価値観を変える分岐点になるのではと感じています。個人の寄付金がかつてないほど動いたのは、かつてなかったこと。さらにそのお金の行方にも関心を持ち、ツイッター上でも義援金の使い道について議論が飛び交っています。「自分の出したお金に責任を持つ」という価値観の変化が生まれているん

だと思っんです。

しかし、一方でほとんどの寄付が日本赤十字社へ回っていて、NPOなどへ直接寄付している人は少ない。義援金の行方がわかりづらいこともあり、とりあえず日本赤十字社に寄付しておけば大丈夫、という人が多いように感じます。この光景、何かに似ていませんか？ よくわからないから銀行に預金しておこう、と、とりあえずインデックスファンドなら安心だろう、日本人のそんなお金意識を彷彿

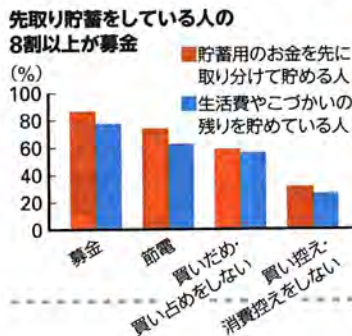
とさせるものだと思うんですね。使われ方だけでなく、応援したい所をその手で調べ、自ら選んで寄付をする。そんな視点も今後は必要ですね。

お金に対するスタンスも同じ。預けっぱなし、投資しっぱなしではなく、自分の手から離れたお金が有効に使われるように責任を持って関わっていく。これまで、なんとなく、というスタンスでお金と付き合い合うことが多かった日本人にとって、新たな一歩になると期待しています。

今回の寄付は、私たちの心が先に動いた結果。とはいえ、リターンを求めていないのではありません。被災者支援や復興といった「社会の変化」というリターンを願っているわけです。

たとえばこれを投資に置き換えてみると、株を買った企業を通じて世の中がプラスに変わるというリターンに期待する。つまり、「応援する投資」という考え方につながります。これまでピンとこなかったという人も、今回の寄付に当てはめて考える

## お金を貯めている人ほど、寄付をして「生き金」にしていた！



**お金に対する意識が高い人ほど被災地支援に積極的**

「先取り貯蓄」をしている人は、していない人と比べて、募金、節電、買い占めをしないといった被災地支援に積極的に取り組んでいるという結果が。

男性  
**1万705円**

女性  
**1万2442円**

平均募金額は**1万円を超える**

平均募金額は1人当たり1万1612円。女性が多め。もともと募金額が多かった年代は40代。逆に少なかったのは25～29歳の3556円で5倍の開きが見られた。

左のデータは、2011年5月に「あるじゃん」が「AII About」ユーザーを対象に実施した「震災後の行動とお金に関するアンケート」の結果に基づいたもの。470件の回答を集計した



### 藤沢久美さん

シンクタンク・ソフィアバンク副代表。日本初の投資信託評価会社を立ち上げるなど投信の普及に尽力。テレビやセミナーでも活躍し、投資の重要性を説く。震災後は、被災地におけるボランティア活動にも積極的に取り組んでいる  
<http://kumifujisawa.jp/>

と身をもって実感できるのではないのでしょうか。  
復興には10年かかるともいわれています。その間、人もお金も継続する必要があります。重要なのは、この流れを止めないことです。最近では寄付金の積み立てや、被災者自らによる復興ファンドや市民ファンドもありますから、応援したい所を選んでお金を出したたり、投資というカタチで支援する方法もある。もちろん収益が出れば、お金というリターンもついてきます。世の中を元気にするには、私たちが経済を回さないと始まりませんよね。  
なにもしないままでは、日本も自分も守れない

震災が私たちに与えた影響は、それだけではありません。今回  
のことがなかったら、自然エネルギーにシフトしようなんて誰も言えなかった。でも今、市民レベルの声が大きな流れとなって政治を動かす、世の中を変えようとしている。これを本物にするには、さらに踏み込んで考える必要があります。新たなエネルギーに変えるなら、資金源はどうするのか。税金なのか国債を発行するのか、それとも寄付や投資で育てるか。判断するためのニュースは溢れています。生きたお金の使い方とは何か。この機会に、まずは周りの人と話し合ってみませんか？  
投資という面でいえば、暗い面ばかり見てもしょうがない。業績悪化や倒産など、先行き不安を煽るニュースばかりが取り上げられますが、それはひとつ

の側面にすぎません。なかには省エネ関連の開発にいち早く着手したり、節電を見越して動き、業績を上げていく企業も。  
海外投資に切り替えるという人もいますが、それもひとつの考え方。やはり今年1年を見れば、日本は貿易赤字に傾く可能性も。不安に備えるのは投資の基本です。  
ただ、一番問題なのは、なにもしないということ。なにもしないままでは、日本を元気にできないばかりか、自らの将来にも備えられない。  
今はネットの時代です。想像力をめぐらせ、連想しながら積極的に情報を探してみる。世の中を変えるのは自分だということを心に刻み、行動することが大切だと思っています。

一番よくないのは「何もしないこと」  
復興に向けての寄付や投資、  
世の中を元気にするために  
私たちが経済を回していきましょう